

は じ め に

突然の地震だった。私は、前任地宮崎から平成6年10月神戸大学医学部（同附属病院）で勤務することとなり、新たな想いで神戸に赴任してきました。

新たな職場、医学部（同附属病院）は昭和51年から再開発を進めてきており、平成7年度には共通棟（事務、管理部門及び図書部門）の工事に着手、平成8年度以降看護婦宿舎、病棟改築と再開発の総仕上げをすべく、山鳥学部長、望月病院長を中心に職員一丸となってその実現に向けて心血を注いでいました。

年が明け、平成7年1月17日未明、赴任後4ヶ月目であった。気候温暖、風光明媚（保養地）、国際観光都市そして地震等災害のないと言われた都市、神戸に突然マグニチュード7.2、震度7の地震（兵庫県南部地震）が発生し、未曾有の被害をもたらしました。

不幸にして、犠牲になられた方々には衷心よりご冥福をお祈りし、残されたご遺族の方々には哀悼の意をささげ、負傷された方々、家屋等の被災を受けられた方々にはお見舞い申し上げます。

自然は自らを作り自らを育て、そしてまた突然自らを破壊した。今回の天災に対し、人間は最先端の科学技術を駆使しても、大自然の前では無力であった。しかし、災禍から1年余が経過し街のいたるところで復興の姿がみられるようになりました。お陰様で本学医学部（同附属病院）も同様でありました。

このような時、医学部事務職員の多くから、このような大きな災害を受け、その日の食事すら確保できない状況の中から立ち上がる事ができたのは、文部省をはじめ全国各地の多くの国立大学の皆様から人的、物的さらには精神的にご支援をいただいたお陰であるという声が上りました。

これらの有難いご厚意にお応えするのは今後長い年月を掛け、感謝の念とできることでお返しする必要があるが、当面、この貴重な体験を残すことにしようということになりました。

この記録は、総務課課長補佐を中心に編集委員会を編成し、日常の仕事の合間また多くの残業の末ようやく出来上がったものです。

最後に、私どもを支えて下さった多くの皆様に感謝申し上げます。

事 務 部 長

堅 田 徳 宏